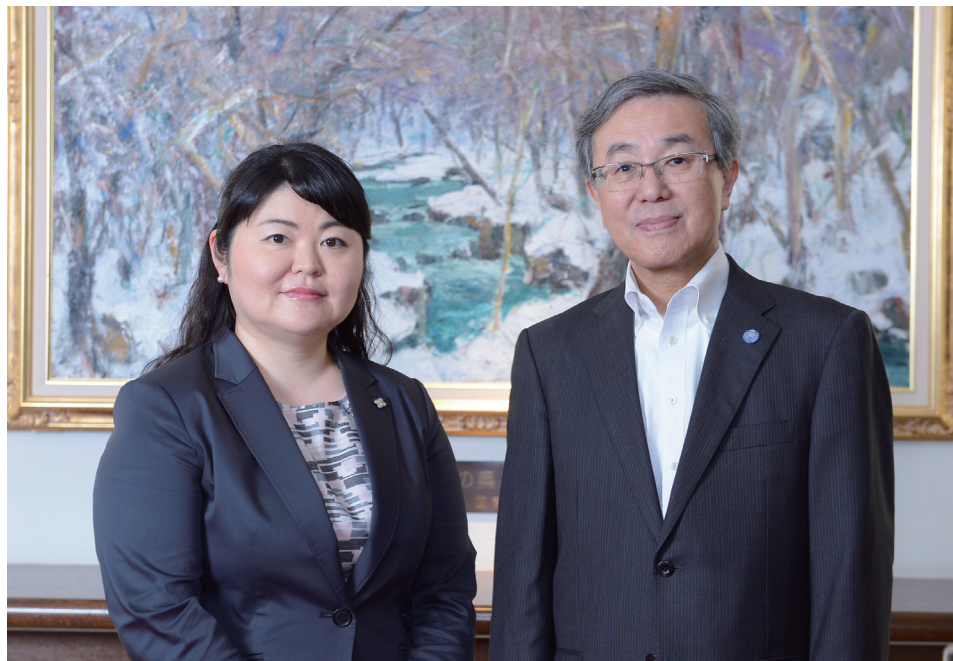


特別対談

青森県民の健康意識向上を目指して



国立大学法人弘前大学 学長
佐藤 敬氏

さとう・けい 北海道出身。弘前大学大学院医学研究科修了。専門は脳血管障害。弘大医学部長、同被ばく医療総合研究所長などを歴任し2012年2月に弘前大学学長就任。

短命県脱却を目指す青森県だが、達成するためには県民自らが生活習慣を改善し、定期健診などを積極的に受診する必要がある。今回は国立大学法人弘前大学の佐藤敬学長と、公益財団法人シルバーリハビリテーション協会(八戸市)の田中由紀子理事長に対談してもらい、県民の健康増進を図るための意識啓発の取り組みを語ってもらった。

「病気になる前の取り組みを強化

田中 弘前大学での健康意識啓発活動は、近年特に効果を上げていますね。

佐藤 かなり以前から生涯教育や市民公開講座を通して県民の健康意識を高める努力は続けてきましたが、2003年に文部科学省から採択を受けた革新的イノベーション創出プログラム(COI)の取り組みが大きかったです。COIでは、「若木健康増進プロジェクト」による多項目

の住民健康診断で得られたビッグデータを活用し、健康づくりを青森県全体で社会実現することを目指しています。ここからさまざまな動きが出てきました。たとえば、仕事に入る前に従業員の血圧測定などを行うタクシー会社があります。また、健康増進企業に低金利で融資を行う金融機関も出てきました。小学校では健康教育が広がり始めました。このように、全県的に社会的な取り組みが少しずつ育ってきており、大変ありがたいです。

田中 「健康」は、頭で分かっているとしても実際の行動に移すのが難しい。どのようにして住民の協力を得たのですか？

佐藤 研究者が現場に何度も足を運び、なぜこの健康診断をやる必要があるのかを説明し続けたからだと思えます。熱心さが地域の方に受け入れてもらえる理由です。

田中 田中さんは法人で健診施設を運営していますが、どのような取り組みをなさっていますか？

田中 施設での企業健診がメインですが、専用車両を使っている巡回健診にも取り組み、むつ市のほか弘前市や津軽地方にも出向いています。青森県は広く健診施設から遠い場所に住んでいる方も多いため、少しでも広範囲の方に健診を受けやすい環境を整えようと思えました。胸部レントゲン検査だけでなく胃の検査もできる特殊車両を導入し、少しずつ整えています。巡回健診での受診者は増えており、関心も高まっていると感じています。

田中 「怖いから行きたくない」という声はよく聞きます。我々としては、再検査の方には検査結果が黄色いのがきを同封して、受診した医療機関から返信してもらい追跡できるようにしています。毎年ひっかかる人には「今年は二次検査に行ってくださいね」と声を掛けたり電話をしたりと個別対応には力を入れています。また、本当に悪い状態であることがなかった場合にはその場で検査を受けてもらっています。

や食事指導で啓発に取り組んでいます。

佐藤 病気になる患者さんをケアするのは医療機関として当然のことですが、時代はそれ以前の取り組みを求めています。住民に食生活や生活習慣全体を日常的に意識してもらい、病気とは真逆のベクトルに持っていくことが求められていると感じます。

「地方と共にある大学」を目指す

田中 食事と言えば、「弘前大学さんの学生食堂はずごい」と聞きました。

佐藤 青森県産の食材をできるだけ使うようにしています。国立大学は東北全体で食材を調達しているため、全てを調達は難しいのですが、学生たちに地元の食材に目を向けてもらい、「おいしいものがたくさんあるんだよ」ということを伝えるために始めました。また、最近では朝ごはんを食べない学生が多いので、試験期間限定の100円朝食も提供しています。

田中 健康指導を本気でやるならまずは自分から。学生は大切な人材ですからね。素晴らしい取り組みだと思います。

佐藤 弘前大学は、地方と共にある大学です。青森県は広く、かつ多様性がある。青森県には青森、八戸、弘前と3つも中心都市がある。それぞれ文化も産業も違う。この多様性をお互い生かし合えるのは、青森県の特長なアドバンテージだと思いますし、大学としてお手伝いしたいと考えています。

田中 八戸サテライトの講義内容は非常に面白いですね。

佐藤 八戸とむつは、距離的な制約もあってこれまで余り活動できませんでしたが、八戸は地元の目線で企画できる方に客員教授となって頂くため、講座が活性化しています。むつでは昨年11月にサテライトキャンパスを設置しました。「学」の力は大きいとは思いますが、医療と工業、医療と食品などの仲介者になれます。このような活動を通して、八戸、むつでも弘前大学の存在感を高めたいと考えています。

田中 最近カフェをオープンさせましたね。とてもかわい建物で素敵です。狙いはなんですか？

佐藤 大学は、実は地域とつながりが薄いです。我々として、市民や観光客にもっと大学に親しんでほしい。だから、市民や観光客がもっと多く大学に入ってくるための拠点としてカフェを整備しました。特に土曜日は駐車場も空いているため、どんどん来てほしいですね。



「弘大カフェ」国登録有形文化財の旧制弘前高等学校外国人教師館にパティオのあるカフェをオープン

TOPICS

「健康意識啓発に役立てて」弘大に1千万円寄付

健康に関する教育や意識啓発活動に役立ててと、シルバーリハビリテーション協会は2月、弘前大学に対して1千万円を寄付した。同協会から弘大への寄付は今回が初めて。弘大内で行われた贈呈式では、田中理事長が佐藤学長に目録を手渡した。弘大は今回の寄付金を、県内各地での教育活動や地域活性化事業などに使う予定。



公益財団法人シルバーリハビリテーション協会

理事長

田中由紀子氏

たなか・ゆきこ 八戸市出身。金沢医科大学医学部卒業。専門は循環器内科。2006年10月よりシルバー病院(現メディカルコート八戸西病院)勤務。2013年4月より現職